

平成30年度 飯綱町社会福祉協議会事業報告

平成30年度は、高齢化や独居、産業構造の変化による低所得者の増化、認知症や障がいにより判断能力が不十分な方への相談支援体制の強化に取り組みました。

相談体制の整備では、専門職員を1名増員して行政、民生委員、福祉事業者等関係機関と連携しながら相談業務を行い、延3,200件を超える相談がありました。また、判断能力が不十分な方への支援については、今までは長野市社協が長野圏域の基幹社協として行っていた日常生活自立支援事業を飯綱町社協で直接実施したことにより、相談から支援がスムーズに実施できるようになりました。相談では、複数の部署との調整が必要なケースが多くワンストップの相談支援が可能な包括的相談支援体制づくりが求められます。

小地域における支え合いの推進の取組では、日常的な見守りや災害時の支え合いに活用することを目的とした災害時支え合いマップの作成をつながり隊に協力をお願いし実施しました。町内42地区で作成が終了し、平成30年度の町総合防災訓練では32地区でマップを活用した訓練が実施され必要性を感じていただいております。未実施地区へは引き続き作成支援を行います。介護予防や健康維持のための通いの場創出では、今年度も生活支援コーディネーター2名を配置し支援を行いました。新たにいきいきサロン2か所、住民主体による予防通所事業所が3か所スタートできました。予防通所事業所の芋川ポテトサロンでは、従来の組の枠組みをこえ芋川区全地域の住民を対象に、地域住民による送迎も含めた事業を展開しております。通いによる介護予防にとどまらず参加者の生活支援の活動も今後期待されます。

介護保険事業では、ここ数年達成することができなかった当初予算を上回る収益を上げることができました。特に通所介護事業所のふれあいの園では飛躍的に利用者が増えました。利用者の目線でサービスを提供した結果であると受け止め、今後ますます多様化する福祉ニーズに柔軟に対応していくように努めてまいります。しかし、その一方で経営改善が必要な事業所もあり、事業所職員とともに経営改善に取り組んでまいります。

介護保険の改正では、利用者の自立支援と中重度者及び認知症の方の受入れ体制の整備、事業の効率化が求められております。このことへのアプローチが今後の安定経営につながるものととらえ邁進してまいります。

1 総務課

■重点項目

今後さらに困難を極めることが予測される介護現場の非常勤職員の確保について、あらたな採用形態を検討するとともに、定年70歳まで勤務可能な働き方の仕組みづくり、介護現場における事務の合理化に取り組み安定した人材確保に努めます。

また福祉を取り巻く環境の変化に対応できる職員の育成と、今後多くの定年退職者がみこまれるため、世代交代がスムーズに行える職員研修を行なってまいります。

○実施内容

- ・安定した人材の確保
臨時職員就業規程の定年を70歳に改定（平成30年4月1日施行）
育児・介護のため勤務していない方への就業アプローチをし、事務職員1名採用した。
- ・介護現場における事務の合理化の検討・実施
事業所事務を洗い出し問題点を可視化した。
ICT（※）検討委員会5回開催
介護現場での事務の分業化（ふれあいの園での事務補助を実施）を進めた。
- ・研修体制の再構築
福祉職員生涯学習研修（県社協が県から受託）に、役職及び経験年数により受講できるように受講管理を行なった。
- ・今後5ヶ年の財政シュミレーションの作成
- ・発展強化計画の推進
資格手当（平成30年4月）、資格取得貸付金規程（平成30年5月）制定
ICT※委員会の答申を受け、平成31年度からの体制整備し、次年度予算に反映
在宅福祉サービス検討委員会の実施、先進地への視察研修（泰阜村、Share 金沢、富山

型デイサービス)を実施した。

○課題等

- ・介護現場における労災事故が発生し休職を余儀なくされた職員がおり、ますます人材が不足する事態となってしまった。現在検討中である腰痛予防対策について、安全衛生委員会と協働して早急に検討を進めていく必要がある。事務の効率化も含め ICT 化を進めていく。
- ・今後を担う人材の育成および職員資質向上のための、積極的な研修を実施していく必要がある。

※情報通信技術 (Information and Communication Technology)

2 地域福祉課

■重点項目

- ・複雑多様化する福祉ニーズに対し、専任の相談員による相談体制の機能強化を図ります。
- ・住民ニーズに沿った食事サービスの提供を実施します。
- ・つながり隊を中核とした支え合いの地域づくりの推進をします。

○実施内容

- ・**新**相談支援体制の整備 **延べ年間相談件数 3,247 件**
チラシの作成やふれあいほけっとへのマンガ掲載などにより、ボランティアセンターに相談が寄せられるよう周知したことにより、多くの機関（地域包括、税務課、介護保険事業所、SUN、まいさぼ、民生委員、つながり隊長など）からの相談が増え、連携も図れてきた。
- ・**新**日常生活自立支援事業の単独実施及び福祉サービス利用援助事業の直接受託 **利用者 4 名**
4 月から調整を始め 10 月から単独実施となった。単独実施となったことで、申請から契約までの時間が短縮された。
- ・**新**基準を緩和した新たな配食サービス実施 **配達食数 1,250 食**
高齢者に限らず必要な方に対し食事提供を行なうため、調理を農家レストラン「日和」に委託し6月から実施した。わらび会や民生委員会、各種団体が集まる機会での PR やふれあいほけっとではマンガによる周知を行なった。1 月からは要望に応え「おかずのみ」も実施した。気軽に頼めるという利点もあり利用者が増えている。
- ・**新**つながり隊支援事業 **モデル地区 5 地区**
モデル地区を募集し、申請された 5 地区を指定。つながり隊長と連携を図り、学習会参加、活動の取材をし、報告書を作成した。つながり隊として新たな活動も生まれ、社協として地区に出向く機会が増えた。地域の特性を活かしたつながりづくりを学んだ。
北川地区 北川お茶のみ会 (いきいきサロン) の立ち上げ
中宿地区 防災から地域のつながり強化事業
毛野地区 毛野地区のつながり隊の活性化
川北西部地区 川北西部つながりづくり
川北東部地区 川北東部組つながり隊「支えあいマップ作成」事業
- ・つながり隊の事業推進 **地区福祉学習会 45 回 (29 地区)、お楽しみ食事会 21 回 (17 地区)**
隊長研修会【4/24・4/26】
- ・災害時住民支えあいマップ体制整備 **新規作成 22 地区、更新 19 地区、訓練 32 地区**
マップの作成についてつながり隊長に依頼し実施した。マップを活かした訓練を実施したことにより、必要性を感じていただくことができた。
- ・**新**住民主体による高齢者の居場所づくりの財政支援 **3 地区 (普光寺東部地区、芋川地区、東黒川地区)**
つながり隊長研修での説明、いきいきサロンなどで介護予防や健康寿命延伸などをキーワードに事業周知。さみずの郷短期集中型予防事業の終わった芋川地区では、通所型 B の立ち上げを実施した。通所型 B としては、普光寺東部、芋川、東黒川の各地区で、また新たに、北川地区と福井団地のこぶし会を中心としたいきいきサロンもスタートした。

○課題等

- ・生活困窮者が初期段階で収入を得るための支援、また引きこもりの方が家から外出し集える居場所づくりをし、外出支援を行なう必要がある。
- ・潜在的ニーズを掘り起こせるよう、より事業周知にも力を入れて、地域で困っている方が困ったままにならない地域づくりを推進していく必要がある。
- ・食事サービスを必要とする方に情報が届くような周知・啓発が必要である。
- ・つながり隊の活動がさらに活発化するよう、モデル地区の内容をマンガで周知する。
- ・マップを使った訓練の実施や常に更新されていく仕組みを作る必要がある。
- ・健康寿命の延伸のため、さらに多くの地区での住民主体の居場所づくりを進めていく。

3 居宅介護支援事業

■重点項目

利用者の望む暮らしの実現のため、医療機関及び町内事業所と連携・調整・情報共有に努め、ケース検討会に積極的に参加し得た知識を支援に活かします。

○実施内容

- ・医療機関との連携を深めるため、毎週1回飯綱病院のカンファレンスに出席する他、町内医療機関スタッフとの懇親会を提案し参加したことで、今まで敷居の高かった医師、看護師、ソーシャルワーカーと顔の見える関係をつくることができた。また飯綱病院ソーシャルワーカーを対象に、ふれあいの園・むれデイサービス(中重度ケア体制加算算定事業所)の見学会を実施し、医療依存度が高くても退院後の受け皿となれる体制について説明することにより、スムーズな入退院時の情報提供につながった。
- ・地域ケア会議等に参加し、町内事業所との情報交換を行った。また、ケアマネジメント研修会やケース検討会に参加しケアマネ個々のスキルアップを図った。研修会での事例提供を通し、各関係機関や事業所との意見交換ができ、互いの理解を深め、ケアマネ個々の長短所の確認、地域の課題を再確認する機会となった。

○課題等

- ・一貫した支援を行うための総合的な窓口となるべく、広い知識を持つために研修会へ参加しスキルアップを図るほか、先進事例を学びながら、飯綱町に不足する社会資源が充実したものになるように提案をしていきたい。
- ・看取りまでの一連の支援を継続的に行うためには、関係者との連携や緊急時の対応体制の整備が必要であるので、これまでと同様に緊密なネットワーク構築を目指し実施していきたい。

4 ふれあいの園

■重点項目

中重度の利用者及びその家族が利用したくなる、また利用しやすいサービスの提供をします。

○実施内容

- ・外部委託の機能訓練指導員による個別機能訓練を実施、うち1名に対し個別機能訓練加算Ⅱの算定ができた。
- ・お楽しみ昼食会や温泉を活用した入浴サービス、レクリエーション等の企画を実施したところ、利用者から好評の声が聞かれ、企画に合わせ追加利用を希望する方もおられた。
- ・サービス提供時間は家族の要望に柔軟に対応した。3食提供や早朝から夜間までの利用を受け入れたことにより、ショートステイの利用をしなくても在宅で過ごすことができたこと、ご家族からも喜ばれた。
- ・ふれあいポケットやホームページを活用し、事業所のPRを行った。

○課題等

- ・外部委託の機能訓練指導員が個別に関わる利用者のみでなく、全利用者に還元できるよう、今後の機能訓練について検討が必要である。
- ・今後も引き続き、利用者・家族が利用したくなるデイサービスとなるよう、お楽しみ企画の実施、柔軟な利用時間への対応の他、職員の接遇にも力を入れていきたい。

5 むれダイサービス

■重点項目

- ・機能訓練（パワリハ・脳トレ・口腔体操）を行う事で、体力向上を図り、機能低下・認知機能低下を防いでいきます。
- ・利用者一人一人の個性を引き出し、軽度から重度の方が充実して過ごせるよう、日々学び、考え、実行します。

○実施内容

- ・少しの時間でも手足の左右の動きを変える体操、指先の運動、嚥下予防として食事に行なう口腔体操等を、職員が介助しながら行う事でそれぞれの機能低下を防げた。
- ・パワリハを行う事で利用者自身が体力維持できているか確認しながら行う事ができた。

○課題等

- ・軽度重度の方のサービス内容を職員一人一人が考え・学び充実したサービスを行う。
- ・機能訓練を充実させる。
- ・今まで以上に生きがいを感じてもらう為に、利用者や家族に話を聞きながら満足してもらえるサービスを行なうよう取り組む。

6 訪問介護（ホームヘルパー）

■重点項目

- ・在宅生活の限界を高める支援の一翼を担っていく。
- ・自立支援を基本に、多種多様なニーズに応えていけるよう、介護保険外サービスも含め、地域包括ケアシステムの下、安心して地域で暮らせる支援をする。

○実施内容

- ・できることを一緒に行なうことで、利用者の自立を促すように努め支援した。
- ・多様化しているニーズに、介護保険サービスの対象でない内容のものも、在宅生活継続のために必要なことは、自費サービスを提案し実施することで利用者のニーズに応えることができ、在宅生活を継続することができた。
- ・がん末期や終末期の方が、在宅での看取りを希望されるケースが増えてきており、医療機関やケアマネとの連携を図りながら支援を行なうことができた。

○課題等

- ・連携のためのシステムを用いて医療機関との連携を図った。情報提供されたものを職員間で共有し訪問に活かすことはできたが、事業所側から発信することがなかなかできなかった。今後はICTを活用した情報連携を進めたい。
- ・今後も増えてくると思われる在宅での看取りのケースにも、住み慣れた家で安心して最期を迎えることができるよう支援をしていきたい。

7 グループホームわが家

■重点項目

一人ひとりの思いを共に過ごし支え合い、家族、地域とつながりながら暮らす支援をする。

○実施内容

- ・将棋、囲碁、謡曲、野菜作り、オレンジカフェ参加等、地域のボランティアや社会資源を使って利用者がやりたいことの支援を行なった。地域行事（敬老会・防災訓練・ふれあい広場等）や子育て支援センターの子供たちとの交流事業へ参加させていただくことで、利用者が表情よく生き活きと過ごされると同時に、ご家族とのかかわりも増やすことができた。
- ・若年性アルツハイマー病者をはじめとする、他事業所利用困難者を受け入れた。また、共同生活の場を重視しての住み替えを進めた。

○課題等

- ・入居者が楽しみを持って生き活きと暮らしていけるよう、今後も、家族や地域との交流を進めていきたい。
- ・入居者の安定した生活を確保するために、看取りケアを含めた医療ニーズ者のための体制

整備や職員のケア力の向上、環境の見直しをしていく必要がある。

- ・経営の健全化を目指し、空床リスクをなくすため、自費のショートステイ金額の見直しをして待機者を確保することや、柔軟で即応性のある入居者判定を行なう必要がある。
- ・センサーについての検討を引き続き行なう（ICT 化含む）。

8 りんごパーク

■重点項目

総合事業の軽度者利用者の受け入れ、かつ要介護者の中重度者等の方々へもパワーリハビリテーションの効果・予防の必要性をPRと実践を通して、居宅での暮らしの「生活動作」や家族の負担が少しでも楽になるように支援していきます。

○実施内容

- ・マシントレーニングを中心とした運動プログラムを実施し、新規利用者からはリハビリ効果を感じられたとの声を聴く事ができた。
- ・生活動作や重度化予防に役立てる体操を組み合わせ提供することで、利用者・家族へも予防の必要性のPRはでき、継続利用につながっている。
- ・体組成計を使用したことで、目に見える数値的評価ができた。

○課題等

- ・身体機能低下に伴い継続利用できなくなるケースもあるが、重度化予防のためには、マシントレーニングを中心に、体操・脳トシを組み合わせたプログラムで効果を引き出したい。
- ・体組成計の借用期間に制限があるために、全員の評価に使用できなかったが、多くの利用者や家族に状態や効果をお知らせしていきたい（宿題的行動変容を見込む）。

9 さみずの郷

■重点項目

総合事業の拠点とした介護予防サービスを施設活動として展開し、生活機能向上のための体操や行事、喜びと生きがいづくりのための趣味・交流を通して社会参加を目指していく。また、健康延伸プログラムと銘打って地域ごとの短期集中型予防事業（3ヶ月ごと）も展開していく。

○実施内容

- ・閉じこもり防止のための行事や趣味交流・外出訓練・軽体操等や、畑での野菜作りを実施した。喜びや楽しみの活動ができ、また利用者同士の交流が深まった。
- ・短期介護予防教室3ヶ月×3クール（赤塩、芋川、高岡）を実施し、潜在化する利用者の掘り起こしができ、予防事業や地域の予防事業（通所B）につながった。

○課題等

- ・男性利用者がなかなか利用しにくい環境にあるので、利用しやすい環境を整える必要がある。
- ・今後も短期介護予防教室を実施し、サルコペニア（※）、フレイル（※）予防対策の必要性や、健康延伸への効果をアピールしていきたい。また、そこから利用者の掘り起こしをし、総合事業や地域の予防事業（通所B）へもつなげていく。

※ギリシャ語の「筋肉」を表す“サルコ”と「喪失」を表す“ペニア”を組み合わせた言葉で、筋肉量が減少し、筋力や身体機能が低下している状態のこと

※加齢に伴い身体の予備能力が低下し、健康障害を起こしやすくなった状態のこと

平成 30 年度地域福祉課各事業実績

総合的企画

- 1 ふれあい広場の企画実施 【6/24】 参加者 1,100 名
- 2 福祉フォーラムの企画実施 【3/9】 参加者 150 名
「支え合い」とは「できること」と「できないこと」の交換作業
講師：ご近所福祉クリエイター 酒井 保氏
- 3 飯綱町地域福祉活動計画の推進
- 4 社協運営推進会議の開催 【4/19】
- 5 住民主体による高齢者の居場所づくりの財政支援 3 地区
- 6 ボランティア及び町民活動の振興拠点整備

高齢者福祉

- 1 一人暮らしなど高齢者の交流事業（わらび会）の開催
年 6 回 延べ参加者 334 名
ボランティア協力者 61 名・演芸等協力団体 5 団体
- 2 おせち料理の宅配事業 194 食
- 3 いきいきサロンの推進 延べ年間参加者数 5,777 名 【延べ開催回数 490 回】
- 4 いきいきサロン全員集合（連絡調整会）の開催 年 1 回 参加者 52 名
- 5 介護用品の斡旋販売事業
- 6 福祉用具の貸出事業 車椅子 52 件
- 7 老人クラブ連合会への協力

障害者福祉

- 1 北部地区障害者自立支援協議会事業への協力 年 4 回
- 2 飯綱町JV会議への協力 年 3 回
- 3 身体障害者福祉協会への協力 一泊旅行 群馬県四万温泉方面
- 4 手をつなぐ育成会への協力 日帰り旅行 新潟県上越方面
- 5 知的障害者等社会参加推進事業（スポーツおもしろプログラム） 年 12 回 延べ 69 名
- 6 共同募金福祉車両貸出事業 15 世帯 延べ 127 回

青少年健全育成及び福祉教育

- 1 があたく塾の開催
登録者 54 名 年 5 回 主な活動 キャンプ、海釣り、うどん&しめ縄づくり
- 2 高校生ボランティアへの協力
福祉・ボランティア授業の講師、地域の方との交流の調整
アルミ缶ボランティア活動
- 3 各校の総合的学習の授業への協力 町内小・中・高等学校 19 回
- 4 福祉協力校の指定（小学校 2 校・中学校 1 校・高校 1 校）
- 5 幼児・児童・生徒との各種交流等の促進
幼児安全法講習会【6/14】 受講者 5 名 内託児 3 名
小学校（児童）、老人クラブと一緒に花壇づくり【6/14】

ボランティア及び住民活動の振興・育成

- 1 ボランティアセンターの運営
- 2 ボランティア活動・市民活動等への相談及び活動のコーディネート
- 3 各種ボランティア活動への支援
- 4 ボランティア養成講座（ボランティアスクール）の開催
アイスコーヒーの入れ方講座 1 回 受講者 15 名
- 5 ボランティアステップアップ講座の開催 傾聴ボランティア講座 2 回 受講者 11 名

- 6 ボランティア連絡会への活動支援
- 7 先進地・他施設等の交流視察研修
 - 長野市豊野地区ボランティア連絡会との交流 参加者 24 名
 - 長野ブロックボランティア交流研修集会 参加者 10 名
 - ボランティア全国フォーラム軽井沢 2018 参加者 10 名
- 8 ボランティアセンター運営委員会の開催

現在社協で把握しているボランティアの活動者の人数・団体

区 分	団体数	人数
個人ボランティア数		307 名
「ボランティア活動を主目的としている団体」の団体数と所属人数	10 団体	150 名
「ボランティア活動を主目的としていない団体」の団体数と実活動人数	13 団体	790 名
合 計	23 団体	1,247 名

調査・普及・宣伝・連絡・調整

- 1 介護サービス提供等に関する調査
- 2 各種ニーズ調査
 - つながり隊の認知度や地区内の助け合い活動の等の状況調査
- 3 広報紙（ふれあいぼけっと）の発行 年 1 2 回発行
- 4 ホームページによる情報の提供（ブログ、インスタグラムの積極的活用）
- 5 地区懇談会等の開催

関連する事業との連携

- 1 医療と介護の調整会議等への参加及び医療機関と連携 【8/23】
- 2 民生委員会との連携
- 3 健康推進（健康管理センター）との事業連携
 - 健康づくりのつどい 【12/16】
 - いのち支えるネットワーク協議会 4 回
- 4 公民館事業への協力

共同募金事業

- 1 世帯 1,000 円（目標）の共同募金の実施

実績	募金総額	2,952,985 円
----	------	-------------

福祉サービス利用支援事業

- 1 日常生活金銭管理事業
 - 日常生活自立支援事業 4 件
 - 金銭管理・財産保全サービス事業 8 件
- 2 第三者委員会の運営

生活困窮者支援

- 1 生活福祉資金の貸付業務 2 世帯 4 資金
- 2 生活困窮つなぎ資金の貸付業務 2 件
- 3 生活困窮者支援事業（まいさぼ）の相談窓口（インテーク） 1 3 件

その他

1 災害援護事業（災害救援体制の整備）

実績 募金総額 1,529,636 円

2 日本赤十字社事業への協力

地区の炊き出し訓練・救急法、救急法の啓発等への協力 5 地区

幼児安全法講習会・救急員養成講習会への協力

3 日赤奉仕団活動への支援

4 環境活動への支援

アルミ缶プレス、古切手、使用済プリペイドカードなど

5 戦没者追悼式への協力 【7/4】

6 遺族会への協力

7 NPOの支援

8 町内福祉施設及び事業者との積極的関係の構築

9 特定目的の寄付について、その趣旨に沿った事業の実施

受託事業

1 家族介護支援事業等

老いの支度講座の開催 全 6 回 参加者 106 名

在宅介護教室 全 5 回 参加者 66 名

介護者交流事業

オレンジカフェ【認知症カフェ】 年 12 回 延べ参加者数 282 名

スタッフ延べ協力者数 89 名

2 在宅介護者リフレッシュ事業（日帰り6回） 延べ参加者数 116 名

ホワイトイン北志賀【6月】 / ビレッジ安曇野【9月】

神の宮温泉かわら亭【10月】 / 中棚温泉中棚荘【11月】

介護者の方との懇談会 … 善光寺宿坊吉祥院【7月】

認知症介護者リフレッシュ事業 … 赤倉ホテル【8月】

3 生活支援コーディネーター事業【第1層】

飯綱町新しい総合事業のコーディネーター業務の支援、サービスの普及・啓発及び開発

総合事業に関する説明会の開催

つながり隊を対象とした説明会の開催 8 回（参加 106 名）

つながり隊長研修会での総合事業に関する説明会の開催 2 回（参加 47 名）

いきいきサロンでの総合事業に関する説明会の開催 20 回（参加 184 名）

広報紙を活用した住民参加の地域（通いの場）づくりの啓発及び推進

広報紙ふれあいぽけっとへの掲載 3 回

飯綱町社会福祉協議会ホームページへの掲載 6 回

いづな通信への掲載 1 回

新たな「通いの場」の創設支援

新たに通いの場を設置した団体への立ち上げおよび運営支援

青柳範子健康運動指導士監修の体操 DVD 及び冊子の作成

体力測定、フレイルチェック、基本チェックリストを通じたフレイル予知及び予防の

推進

サービスの担い手の養成、ステップアップ講座

高齢者支援・介護サービスの担い手養成研修の開催 3 回（参加 34 名）

関係機関の情報共有、サービス提供間の連携づくり

地域包括支援センターとの連携強化、定期的な情報共有を目的とした会議への参加

11 回

理化学研究所との協働による基盤整備に係る会議等への参画 3 回

飯綱中学校生徒の通いの場参画に関する企画及び調整

サービス会議（協議体）の企画運営

生活支援協議体の開催 2 回

- 4 生活支援コーディネーター事業（第2・3層）
- 飯綱町新しい総合事業のコーディネーター業務
 - 住民主体型サービスの実施状況の把握及び運営支援
 - パワリハの会（福井団地） 延べ参加者数 2,269 名
 - すみれ会（赤東） 延べ参加者数 557 名
 - あじさい会（普光寺東部） 延べ参加者数 311 名
 - ポテトサロン（芋川） 延べ参加者数 372 名（H31.1月～）
 - さざんかの会（東黒川） 延べ参加者数 92 名（H31.2月～）
 - ※その他、通いの場への移動支援を行う4団体の運営を支援
 - 地域包括支援センターと協働による利用者支援
 - 潜在的な要援護者へのアプローチ
 - 生活支援・介護サービス提供団体と連携し、利用者へのサービスの利用調整業務
 - 従事者を対象とした研修の企画及び実施 開催 3 回（参加 43 名）
 - 有償在宅たすけあいサービスの運営実施
 - サービス利用者と協力者のマッチング
 - 有償たすけあいサービスに関する説明会の開催 10 回（参加 227 名）
 - 有償たすけあいサービスの実施 相談・調整件数 153 件
 - サービス利用促進のための普及・啓発
 - パワーリハビリテーションストラクチャーフォローアップ研修の開催 18 回（参加 108 名）
 - 介護保険サービス・公的サービスへの橋渡し業務
- 5 結婚相談所運営事業 成婚 2 組、マッチング 6 件
- 結婚相談 相談件数 来所 92 件 電話 413 件
 - 結婚相談所協力員の研修会、会議の実施
 - 男性を対象とした「もて塾」の実施 【2 回/年】
 - 女性を対象とした情報交換会の「ときめきクラブ」の実施 【5 回/年】
 - 町内飲食店でのミニ婚活の開催 【3 回/年】
 - 婚活パーティーの開催 【5 回/年】
 - 社協ホームページ、フリーペーパー「プース・カフェ」への掲載等による情報発信
- 6 生涯学習事業補佐業務
- いづな大学への協力
- 7 介護予防支援事業（要支援認定者ケアプラン）
- 予防プランの作成
- 8 介護予防事業（お元気くらぶ、すてきなおやじさんくらぶ）
- 飯綱町介護予防活動支援事業の受託
 - お元気くらぶ（2 回/月） 通年
 - すてきなおやじさんくらぶ（1 回/週） 1～3 月
- 9 こども食堂（てんぐカフェ）
- 年 11 回開催 延べ参加者数 262 名 延べスタッフ数 134 名
 - 住民主体の運営体制への移行 スタッフ会議 4 回
 - 運営スタッフ養成講座の開催
 - 先進地視察研修の実施
 - 【5/10 北信こども食堂ネットワーク意見交換会】 参加者 5 名
 - 【7/14、9/8 すざかこども食堂視察】 参加者 16 名
 - 【10/21 地域のみんなでつくる居場所について学ぶ】 参加者 5 名
- 10 認知症高齢者やすらぎ支援事業 対象者 1 件 計 6 回
- 11 緊急宿泊支援事業 1 件
- 12 地域包括支援センター職員派遣（2 名）
- 13 健康増進機器指導者養成
- パワーリハビリテーション指導員養成講座の開催
 - 【2/24 事前研修】 参加者 20 名
 - 【2/28 養成講座】 参加者 20 名